平成２６年度版

いまようからの

キャリア教育のすすめ

～障がいがある児童・生徒を指導・支援されている学校の皆様へ～

北海道今金高等養護学校 研修部

～ 目 次 ～

はじめに ・・・・・・・・・・ 1

第１章　キャリア教育とは ・・・・・・・・・・ 3

第２章　キャリア教育の必要性 ・・・・・・・・・・ 7

第３章　押さえておきたい用語 ・・・・・・・・・・11

第４章　キャリア教育をするために ・・・・・・・・・・14

１　Plan（計画） ・・・・・・・・・・15

２　Do（実践） ・・・・・・・・・・17

３　Check（評価） ・・・・・・・・・・21

４　Action（改善） ・・・・・・・・・・22

５　連携のあり方 ・・・・・・・・・・23

資料（１～４） ・・・・・・・・・・27

参考資料・知的障害のある児童生徒の
キャリアプランニングマトリックス ・・・・・・・・・・38

おわりに ・・・・・・・・・・39

参考・引用文献 ・・・・・・・・・・40

※ 表紙のイラストは「今金町マスコット - いまルン」と今金町の風景です。

はじめに

学校教育において取り組むべき様々な課題がある中で、近年キャリア教育の充実が求められるようになってきています。その背景には、社会生活を送る上で必要な基本的な知識の獲得の不足、倫理観の希薄さ、人間関係の形成が難しいなどの学校教育上の課題や生徒の発達的な課題があります。また、経済不況や雇用形態の変化などの社会経済的な変化に加えて、新規学卒者のフリーター志向の広がりと就職後３年以内の離職率の増加傾向が見られる中、学校教育と職業生活との接続が課題となりました。

国においては、中教審答申「２１世紀を展望した我が国の教育の在り方について」・「教育改革プログラム」（平成９年）、理科教育及び産業教育審議会答申「今後の専門高校における教育の在り方等について」（平成１０年）などにおいて、「高等学校における進路指導や職業教育の見直し」が課題となりました。この見直しを初等教育から職業生活までを視野に含めたものとして捉え直す進路指導改革としての「キャリア教育」が、中教審答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（平成１１年）で示されました。そこでは、学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策として、進路指導として行われる教育に職業に関する知識・技能の修得を図る教育を加え、「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに，自己の個性を理解し，主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。」とされ、「また、キャリア教育の実施に当たっては、各学校ごとに目標を設定し，教育課程に位置付けて計画的に行う」ことが求められました。

その後、キャリア教育の定義は、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」（平成１６年「報告書ー児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるためにー」）から、平成２３年には、中央教育審議会においてキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」となりました。言い換えれば、「一人一人の社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく教育」です。特別支援教育においては、平成２１年告示の特別支援学校高等部学習指導要領に「キャリア教育」の文言が明記され、キャリア教育への取り組みが進みつつあります。

本校では、平成２４年度から研究主題を『社会の変化に対応できる力を育てる実践的研究～「今養版キャリア教育」の創造を目指して～』とし、３カ年計画で第６次研究に取り組んでおります。その成果として、「今養版キャリアプランニングマトリックス」（試案）を作成し、マトリックスを基に教育課程（教育活動）と学校運営体制を見直すことに着手しています。

さて、本校は渡島・檜山管内の中学校特別支援学級等から入学者を受け入れていますが、生徒が入学時に抱えてくる様々な困り感の状況を見ると、中学校のキャリア教育の充実と高等養護学校のキャリア教育との接続に重要な課題があると言えます。このことを踏まえ、本校のキャリア教育の取り組みとその成果を知っていただくと共に、地域の障がいのある児童生徒の高等部教育への円滑な移行（小中高一貫したキャリア教育）を推進していくために、本冊子を発刊することといたしました。

本冊子を手がかりに小学校及び中学校の特別支援学級において、児童生徒の実態や学校の実情に合ったキャリア教育の全体計画（キャリアプランニングマトリックス）が策定されて、教育課程（教育活動）と組織体制の見直しが図られると共に、一人一人の「個別のキャリアプラン」が児童生徒と共に作成されて、高等養護学校のキャリア教育へ円滑に接続できる教育の実現が図られることを願うものであります。

そして、障がいのある児童生徒が生涯にわたって、社会において働き自分の役割を果たしながら自分らしい生き方ができるようになることを願い、地域の教育関係機関の皆様との連携を今後一層強めていきたいと考えます。

平成２６年８月

北海道今金高等養護学校長
髙　嶋　利次郎

第１章　キャリア教育とは

「キャリア教育」という言葉自体、堅苦しいイメージはないでしょうか。難しそう、よくわからない横文字ということで、嫌いな方も正直いらっしゃると思います。確かにキャリア教育は理想主義的なところがあり、限界があると言われています。

しかし、知らぬ間に実践していたことが「それってキャリア教育じゃない！」ということもたくさんあります。ですので、本校では「やることはほとんど同じだけど、新しい見方・考え方で今一度見直してみよう」そして「もっとできることがあれば、やってみよう」という意識で取り組んでいるところです。

まずはこの難解な言葉をかみ砕き、キャリア教育に対する共通イメージを持つことが必要であると考えます。一般に「キャリア」という文言の定義は、以下のとおりです。

○「キャリア教育」の定義

> 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
>
> 中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（H23 年１月）

○「キャリア発達」の定義

> 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程
>
> 中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（H23 年１月）

○「キャリア」という言葉の意味

> 人は「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。このように、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが「キャリア」の意味するところである。
>
> 中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（H23 年１月）より一部抜粋

これだけでは、イメージが持ちにくいと思います。次の定義付けはいかがでしょうか。

○ ある書籍による定義の要約

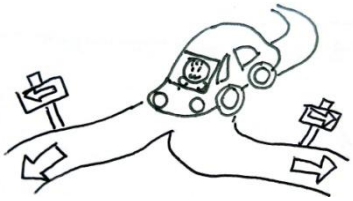
> 生涯にわたる自分のキャリアを、自分で考えるようにするための教育。学校段階で自分のキャリアを考える重要性を理解し、そのための方法を学び、学校を出てから自分で自分のキャリアを考えていけるようにするために必要な教育を行うこと。
>
> 下村英雄『キャリア教育の心理学』より

○ 本校独自の職員研修資料における定義の要約

> 自己有用感や自信、意欲、向上心や夢・希望・目標を抱かせ、自分の人生をよりよく生きるための努力や工夫を自ら続けられる心と体、スキルを身につけさせること。その一要素として、進路選択・進路決定があり、進路を決めさせることだけがキャリア教育ではない。
>
> そうして身につけた知識や技術、価値観や考え方は、この厳しい世の中をたくましく“生きる力”になると考える。

○ 本校の保護者向けの説明

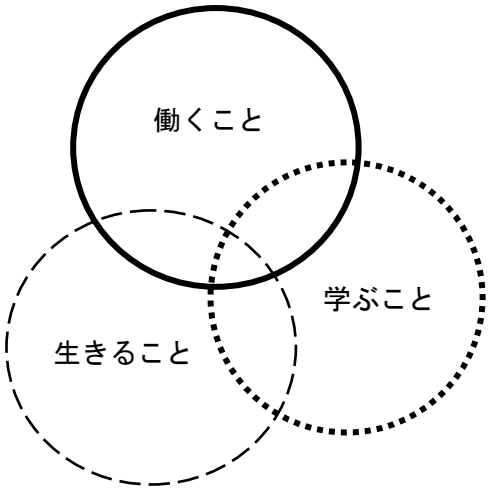
> 車に乗っている人は、お子様を示しています。お子様一人一人が自分の得意・不得意に合った車（生き方）を周りの大人と一緒に探して、それに乗りこんで、自分に合った進路（すなわち就労先であったり、趣味であったり）を周りの大人と相談しながら最終的には自分で選び、夢や希望や目標といった目的地を自分で見つけながら進んで行く･･･という力を身につけさせることが、キャリア教育です。



イメージが持てたでしょうか。

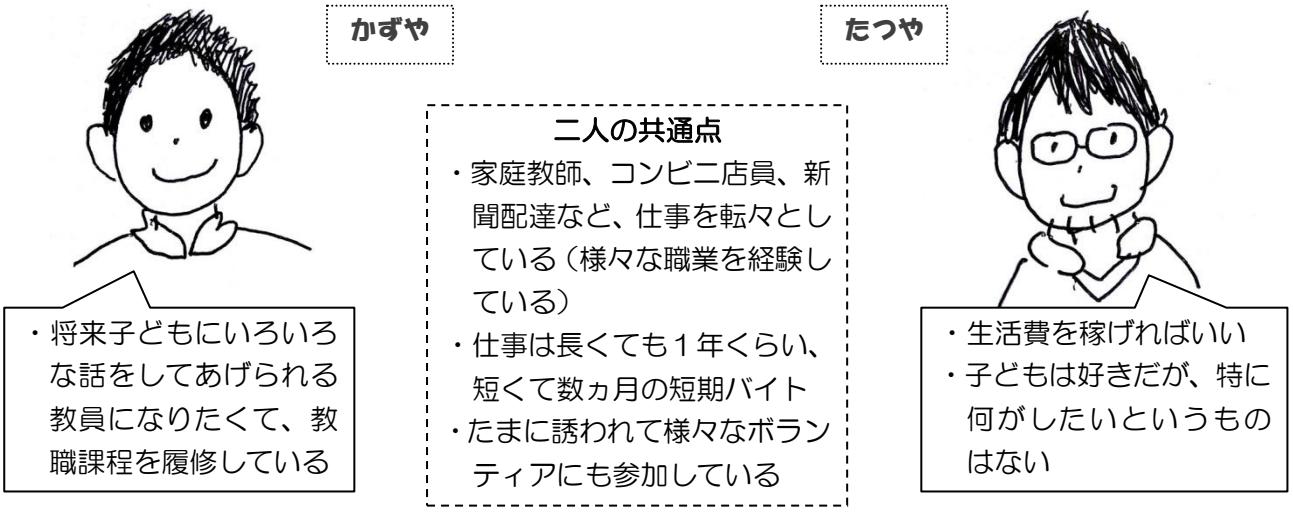
「キャリア」の語源はラテン語の carrus（荷車）で、車が道をずっと走っていくような「続くもの」という考え方・状態を指すそうです。「キャリア」を訳そうとした昔の専門家たちは「経歴」「進路」「職業」という言葉を当てたそうですが、意味が限定されてしまって、しっくりこなかったため「キャリア」という言葉が使われるようになったそうです。しかし、この「キャリア」という言葉は、今まで日本語にはなかっただけで、人の一生において欠かせない考え方ではないでしょうか。人は産まれて死ぬまでずっと「キャリア」を積み重ね続け、生きている･･･と言えるのではないでしょうか。

キャリア教育の重要な要素は、右図の３つであると言われています。長く「働く」ためには、「学ぶこと」も続けていく必要があります。そうすることで、幸せに「生きること」ができます。この３つがくっついている（つながっている）ことが望ましいというのが、キャリア教育の根幹にある発想です。



下村英雄『キャリア教育の心理学』より

つまりキャリア教育は、生き方を身につけさせる教育です。進学先や就労先へ送り出すための、狭義の進路指導、前世紀の職業教育、いわゆる出口教育ではありません。学校では、進学後、就労後の生き方を考えさせ、生き抜くための準備をさせるのです。これを、普段の授業・指導・支援の中で行うのです。



２人の大学生のうち、いきいきとした人生を送れそうなのは、どちらでしょうか。自分がやっていることが将来につながっているという感覚（期待）、やったことが役立ったという実感（充実感や達成感）を持てなければ、仕事（やっていること）に対する不満が募り、やらされているという感覚になり、ちょっとした苦難もストレスになり、その結果職を転々としたり、物事に対する意欲もなくなったり、反社会的行動をおこしたり･･･と、悪循環に陥るでしょう。つまり 下線部 を、子どもたちが自ら持てるような授業・指導・支援の工夫が必要なのです。

ところで、みなさんはご自身のキャリアを人に説明できますか？単純な経歴紹介ではありません。過去の学習や経験が、現在の生活（人生・生き方）のここに役立っている、と説明できますか？

例えば･･･

・大学のサークルで経験したことが今も趣味で、余暇の充実につながっている。
・昔から積極的に人とかかわってきたから、友達が多く、職場でのコミュニケーションもうまくできている方だ。
・以前読んだ本に感銘を受けて、仕事に役立てている。
・いじめられた経験があるから、人の痛みがわかるつもりだ。
・数学は赤点だったが、かろうじて記憶している関数処理が Excel でできる。
・前任校で教務部だったので、今の学校では教育課程に関する仕事ができている。

いかがでしょうか。これは現在から過去を振り返ったものですが、子どもたちには「現在から未来を想定させる」ことも必要です。そのためには、意図的・計画的にねらいを設定して授業づくり・学校づくりをしていくことが重要です。具体的には、第３～４章で述べますが、あくまで本校の実践（途中経過）をご紹介するにとどまります。本冊子を一つの参考として、各学校独自の創意工夫でキャリア教育を推進していただけることを期待します。

♪ ポイントまとめ ♪

○ キャリア教育は、生き方を身につけさせる教育。

○ キャリア教育は、単純な進路指導、職業教育、出口教育ではない。

○ キャリア教育の要素は「働くこと」「学ぶこと」「生きること」。

○ 今やっていることが、次につながっているという感覚。前やったことが、今役に立っているという実感。これを子どもが自ら持てるような授業・指導・支援をすることが大切。

○ 意図的・計画的にねらいを設定した授業づくり・学校づくりが重要。

第２章　キャリア教育の必要性

そもそも、なぜキャリア教育が必要なのでしょうか。端的に言ってしまえば、経済・産業構造の変化やそれに伴う雇用形態の多様化によって、若者の進路に関する状況が変化しているからです。単に送り出す指導ではなく、卒業後よりよく生きていく力を伸ばす指導が求められています。その指導こそ、キャリア教育なのです。

① 進学率・就職率から見る必要性

平成２６年３月の北海道の高卒就職率は９５％、同時点での有効求人倍率は 0.82 です。平成２５年度の有効求人倍率は 0.74 で、４年連続で上昇していますが、昨今の社会・経済情勢を見ると安心はできないでしょう。

表１　平成２５年度の進学率・就職率

	中卒者（%）	高卒者（%）
進学率	98.4	53.2
就職率	－	16.9

進学率：中卒は高校へ、高卒は大学・短大へ

文部科学省『2013 年度学校基本調査』

表２　道立特別支援学校（知的）卒業生の就職状況

	卒業生数（人）	就職者数（人）	就職率（%）
平成 22 年	603	108	17.9
平成 23 年	688	127	18.5
平成 24 年	789	162	20.5

北海道教育庁『道立特別支援学校高等部卒業生の就職状況』

ちなみに表２に付け加えると、職業学科を設置する高等養護学校卒業生は、卸小売業と製造業に半数以上が就職しています。義務併置校（普通科）は例年１０名程度で、クリーニング業、食品サービス業、製造業に就職しています。北海道教育推進計画には、職業学科の卒業生の就職率を平成２９年度には３５％にするという数値目標もあります。

そして本校では、表３のような状況です。主な就職先は、水産加工業、食品加工業、販売業、介護業、クリーニング業、郵便局、臨時公務員となっています。

表３　北海道今金高等養護学校 卒業生の就職状況

	平成 12~21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	合計
卒業生数	216	24	21	23	27	23	334
卒業時の就職者数	38	0	6	4	11	9	68
卒業時の就職率	17.6%	0.0%	28.6%	17.4%	40.7%	39.1%	20.4%
卒業後の就職者数	15	3	0	2	0	0	20

※本校は平成９年に開校。よって第１期生の卒業年は平成１２年であり、平成２６年３月の卒業生は第１５期生にあたる。

北海道今金高等養護学校 進路指導部まとめ（平成２６年７月現在）

② 離職率から見る必要性

せっかく就職しても、喜び、楽しみ、やりがいなどモチベーションを維持する力が身についていない場合、または維持できるような支援がない場合、こういう結果になります。だからこそ、キャリア教育で生きる力を育むことが必要なのです。また、社会全体で就職者を支えていくことも考えなければならないでしょう。

表４　道立高等養護学校（知的）の離職状況

	離職者数（人）	１年以内（%）	２年以内（%）	３年以内（%）
平成 21 年	123	10.3	14.6	25.9
平成 22 年	102	8.8	18.6	
平成 23 年	116	8.9		

単純比較はできませんが、表２の就職者数・就職率と比較してみてください。

北海道教育庁『道立特別支援学校高等部卒業生の就職状況』

平成２３年を見ると、新たに１２７人が就職した一方で、１１６人という同じくらいの人が離職しているのです。ちなみに、本校の場合は表５のとおりです（表３に離職状況を付け加えたのが表５です）。開校以来８８名が就職を一度は経験した一方、約半数の４０名が離職を経験しているのです。

表５　北海道今金高等養護学校 卒業生の就職・離職状況

	平成 12~21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	合計
卒業生数	216	24	21	23	27	23	334
卒業時の就職者数	38	0	6	4	11	9	68
卒業時の就職率	17.6%	0.0%	28.6%	17.4%	40.7%	39.1%	20.4%
卒業後の就職者数	15	3	0	2	0	0	20
離職者数	33	0	0	3	4	0	40
現在の就職者数	20	3	6	3	7	9	48
現在の就職率	9.3%	12.5%	28.6%	13.0%	25.9%	39.1%	14.4%

※本校は平成９年に開校。よって第１期生の卒業年は平成１２年であり、平成２６年３月の卒業生は第１５期生にあたる。

北海道今金高等養護学校 進路指導部まとめ（平成２６年７月現在）

離職の理由は、卒業後の開放感からくる家庭・グループホームでの生活の乱れ、自己認知の不足からくる職場の人間関係のこじれ、現実社会とのギャップによる勤労意欲の低下、企業の業績悪化による閉鎖・倒産などがあります。卒業生を支える側に課題がある場合と、卒業生自身に課題がある場合、両方ともある場合の３パターンがあります。

③ 若者の意欲から見る必要性

フリーター、ニート、ワーキングプアなどの問題が社会問題になっています。自分や社会に無関心な若者や、自分が何をしたいのかわからないという若者が、こんなにたくさんいるのです。生きにくい世の中に対する前向きな気持ちが育まれていない証拠ではないでしょうか。では、その前向きな気持ちをどう育てるのか、それについて追求していくことこそ、キャリア教育なのです。

表６　フリーター・ニート数の推移　（万人）

	フリーター	ニート	合計
平成 21 年	178	63	241
平成 22 年	174	57	231
平成 23 年	176	60	236

厚生労働省『若者雇用関連データ』

※ フリーター
15～34 歳の男性または未婚女性（学生除く）で、パート・アルバイトで働く者、またはこれを希望する者

※ ニート
15～34 歳で非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者

表７　平成２５年３月新規高卒未就職者（６０４人）の状況

ア　就職しなかった・できなかった理由（%）

何度も受験したが採用されなかった	40.0
希望した職種がなかった	23.9
アルバイトをすることにした	16.1
自分が何をしたいのかわからない	9.6

イ　６月末時点の状況・上位３位まで（%）

非正規雇用者として働いている	41.8
何もしていない	22.2
正規雇用者として働いている	18.8

この理由
・希望就職先がない･･･49.6%
・受験したが採用されない･･･20.3%
・何をしたいかはっきりしない･･･19.5%

北海道庁経済部雇用労政課『平成２５年３月新規高卒未就職者に関する状況把握（５月末・６月末)』

④ 若者の意識から見る必要性

若者に、あなたは何のために働くのかと尋ねたデータがあります。現実的な考え方を持つ若者が多いようですが、先の離職状況、未就職者の状況と並べて考えると、もう少し多様な考え方を持って働いた方が長く働けるのではないでしょうか。多様な考え方を持てるようにして、うまく人生を歩んでいける力を育てるのが、キャリア教育です。

表８　何のために仕事をするのか（上位５位・％）

収入を得るため	63.4
自分の生活のため	51.0
自分の夢や希望を叶えるため	15.0
家族の生活のため	12.6
達成感や生きがいを得るため	11.3

内閣府『平成２４年度版 子ども・若者白書』

また、働くことに対しては表９のような不安を抱いています。こうした不安を少しでも和らげて、希望を持って背中を押してあげるような教育が必要ではないでしょうか。単純に職場や上級学校に送り出すだけではなく、もっと生き方について踏み込んで考えさせる指導をすること、つまりはキャリア教育が必要です。

表９　働くことに対する現在・将来の不安（上位５位・％）

	24 年	26 年
十分な収入が得られるか	82.9	78.0
老後の年金はどうなるか	81.5	77.6
人間関係がうまくいくか	79.0	74.8
就職できるか・仕事を続けられるか	79.6	74.6
社会の景気動向はどうか	80.4	73.5

内閣府『平成２４年度版 子ども・若者白書』『平成２６年度版 子ども・若者白書』

♪ ポイントまとめ ♪

○ 働いて生きることが困難な時代だからこそ、キャリア教育が必要である。

→ 就職率は上向きだが、社会・経済情勢を見ると安心できない。

○ 生きる力が育っていない状況があるからこそ、キャリア教育が必要である。

→ 社会的要因もあるが、成長が未熟ゆえの離職が多い。

→ 将来に対して、前向きな気持ちを持てない若者がたくさんいる。

→ 将来に対して、現実的な不安を持つ若者がたくさんいる。

第３章　押さえておきたい用語

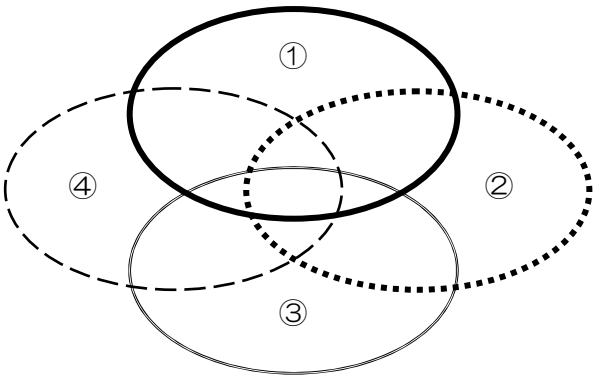
「キャリア教育」に関する代表的な用語をまとめました。難しい用語をよくわからないままに校内研究やキャリア教育計画の作成をしても、実践や研究はきっとうまく進まないと思います。本校では、なるべくわかりやすく、かみ砕いて共通理解を図りました。また、人事異動や期限付き職員・若年層職員の多い本校の特性を踏まえて、共通理解に時間を要する難解な用語はあえて使用していません。このようにして、スリムでスマートなキャリア教育を目指しています。

○「４領域８能力」

職業観・勤労観の形成、およびキャリア発達に関わる能力。

授業、指導、行事など様々な場面ごとに、どの能力を伸ばすかを意識することが大切。

４　領　域	８　能　力
① 人間関係形成能力	・自他の理解能力
	・コミュニケーション能力
② 将来設計能力	・情報収集・探索能力
	・職業理解能力
③ 情報活用能力	・役割把握・認識能力
	・計画実行能力
④ 意思決定能力	・選択能力
	・課題解決能力



① 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、人とコミュニケーションを図り、協力・共同する力
② 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに将来を設計する力
③ 学ぶこと・働くことの意義や役割、その多様性を理解して、幅広い情報を進路や生き方の選択に生かす力
④ 自分の意志と責任でよりよい選択・決定を行う力。その過程で、課題や葛藤に対し積極的に取り組み克服する力。

○「知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）」

４領域８能力が、学年が上がるにつれ高い内容に育まれていくことを一覧にしたもの。

小学校（部）、中学校（部）、高等部段階で育てたい力が明記されている。

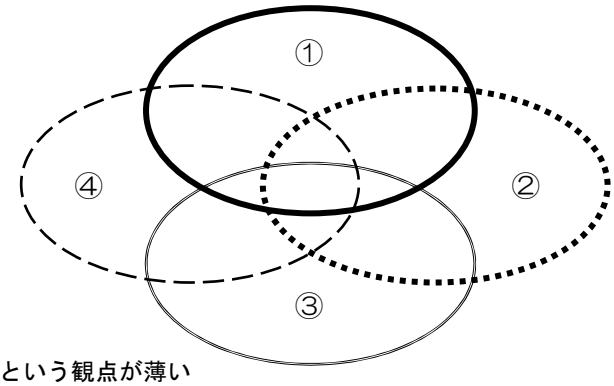
国立特別支援教育総合研究所が２０１０年にまとめたもの。

○「基礎的・汎用的能力」

４領域８能力を見直した新たな分類。

これらの能力は包括的な概念であり、

必要な要素を提示したもの。



※ なぜ見直したか（４領域８能力の問題点）

・高等学校までの想定であり、生涯を通じて育まれるという観点が薄い

・提示された能力は「例示」なのに、現場では固定的に捉えられている

・領域、能力の説明が不十分なまま、名称や印象に依拠した実践が散見される

① 人間関係形成・社会形成能力

多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力。そして自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たし、協力・協働して社会参画する力。

② 自己理解・自己管理能力

できること、したいことについて、社会との相互関係を保ちながら、今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する力。さらに自らの思考や感情を律し、成長のために進んで学ぼうとする力。

③ 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立てて、その課題を処理し、解決できる力。

④ キャリアプランニング能力

働くことの意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し、主体的に判断してキャリアを形成していく力。

※ 本校では、これらの概念の共通理解には時間を要すること、新たな分類を持ち込むと現場が混乱する恐れが高いこと、４領域８能力で示されている“必要な能力”つまり大切なことは変わっていないこと、また研究アドバイザーの助言により、この能力分類についての共通理解は行っていません。

○ PDCA サイクル

Plan（計画）、Do（実践）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返すこと。

キャリア教育の実践では、このサイクルが重要と言われている。

※ 本校のキャリア教育に関する校内研究は、このサイクルで取り組んでいます。

○ キャリア教育推進に必要な３視点

「生徒が主体となること」「教育課程の見直しと授業改善」「組織の見直し」

この３つが重要な視点であると言われている。

※ 本校のキャリア教育に関する校内研究では、この３つ全てに取り組んでいます。

○ 意味付け・価値付け

なぜこの目標でこの行事や授業をするのか、なぜこの題材でこの指導をするのか、何のためになるのかという見方から指導を行い、生徒にもこれらを実感させること。

○ 重み付け

指導の際、どこに重きを置くかはっきりさせて指導すること。

○ 関連付け

１つの指導内容を授業間・指導場面間でどのようにリンクさせるかというように、相乗効果を生ませる工夫を明確にして指導すること。

※ 「PDCA サイクル」～「関連付け」までをご覧いただければご想像がつくかと思いますが、キャリア教育は意図的・計画的にねらいを設定して授業づくり・学校づくりをしていくことが重要です。

このほかにも様々な専門用語があります。しかし、本校で共通理解しているもの、普段から教職員が意識するよう呼びかけているのは以上のとおりです。このくらいが、本校の実情に合っていると考えたからです。ですから、各学校では各学校の実情に合わせて、専門用語を読み解き、キャリア教育の共通理解を図ることをおすすめします。